

# いのちまもれる 国保に！

なぜ苦しくなるまで受診せず、我慢していたのでしょうか？  
なぜ国保証が切れていたのでしょうか？

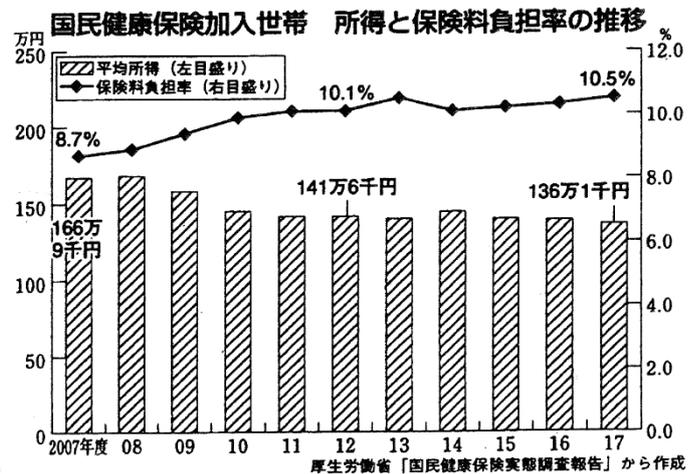
国民健康保険（国保）は、主な5つの医療保健（市町村国保・協会けんぽ・組合健保・共済健保・後期高齢者医療）の中で、加入者数が最も多い医療保険です。

では、それぞれの所得に対する負担の割合はどうかと言いますと協会けんぽが6・2%、組合健保が4・6%、共済健保が4・7%、後期高齢者医療が7・9%、国保が9・1%と最も高い負担率になっています。

## 国保は低所得者と 高齢者多い

国保の加入者はもともと農林水

# 10年間で所得2割減 保険料負担は2割増



## 自治体国保加入世帯 17年度

### 厚生労働省調査

世帯の2017年度の平均所得は136万1千円で、10年間で2割とが4日までに、厚生労働省の調査報告でわかりました。調査報告は「17年度(8・7%)」の加入

国民健康保険実態調査より2割近くも重くなると報告。すべての保険者加入者・世帯を調査対象にして、17年9月末時点の保険料や加入者・世帯の状況を調べています。それによると、17年度の自治体国保に加入する1世帯あたりの平均所得は、前年度より減って136万1千円でした。10年前の07年度(166万9千円)と比べると、2割近く減っています。(グラフ)一方、17年度の平均保険料(調定額)は14万2,287円で、前年度よりわずかに下がりました。しかし、平均所得がそれ以上に減少したため、保険料負担率は前年度より増えて10・5%となりました。07年度(8・7%)

産業や自営業など、収入が不安定な職業の方が7割占めていたが、最近では高齢で無職の方・低年金の方、病気で働けない方や非正規労働者の方などに変化しています。

厚生労働省のH28年度「国民健康保険実態調査」でも、2016年度は65〜74歳の占める割合が40・5%になっています。

## 高い国保料(税)で

## 5世帯に1世帯が滞納

滞納世帯は390世帯(世帯比率19%)、5世帯に1世帯という状態になっていますが、国・自治体は、収納率を上げるため取り立てを強めています。

滞納世帯は390世帯(世帯比率19%)、5世帯に1世帯という状態になっていますが、国・自治体は、収納率を上げるため取り立てを強めています。